

## 洪水と浸水被害

洪水には、川の堤防が壊れたり堤防から水があふれたりして発生する氾濫（外水氾濫）と、降った雨が水路や下水道などで排水しきれなくなることにより起こる氾濫（内水氾濫）があります。



## 避難のポイント

いざという時のために、日頃から避難に必要なものを準備し、避難の手順について確認しておきましょう。また、災害の危険性がある場合には、正しい情報を入手し、早めの避難を心がけましょう。



### 状況を見て、早めに避難しましょう

避難情報などが発表されていなくても、状況などから判断し、自主的に避難しましょう。



### 浸水時に長靴は厳禁

避難には運動靴が最適です。長靴は水が入ると歩けなくなります。また、素足での避難は大変危険です。



### 防災メモを持とう

高齢者や子どもは、事前に住所、氏名、連絡先などを記載したメモを用意し、身につけて避難しましょう。



### 持ち出し品を準備

非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。



### 浸水時、自動車での避難は危険

普通自動車は約30cmの浸水で走行困難になります。浸水時、自動車での避難は危険です。



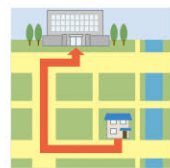
### 家族に連絡メモを残そう

外出中の家族には、「どこどこへ避難する」といったようなメモを残しておくといいでしょう。



### 集団で助け合おう

単独での行動は避け、近所の人などと集団で避難しましょう。



### 安全なルートで避難

避難場所への経路は、川べりや地下歩道などは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。

## 水平避難と垂直避難

災害時は早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が迫っている状況での無理な避難はできるだけ避けなければいけません。そのような場合は、避難場所への移動（水平避難）だけでなく、近隣の高い建物や自宅の2階といった高い場所への移動（垂直避難）を行い、救助を待つという判断も必要です。また、土砂災害の危険性がある地区では、屋内でも山と反対側に避難を行うことも必要です。



危険な避難



避難場所への  
早めの避難（水平避難）

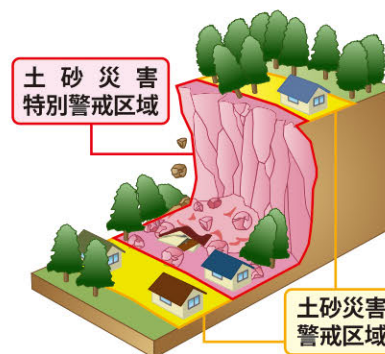


屋外へ避難できない場合  
高所への避難（垂直避難）

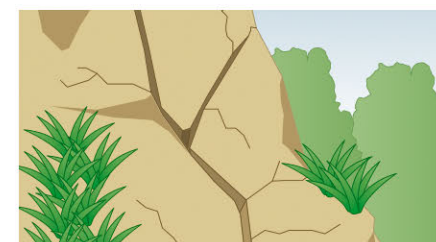
## 土砂災害の種類と前兆現象

### がけ崩れ（急傾斜地の崩壊）

地中にしみ込んだ水分により、急な斜面が突然崩れ落ちる現象です。突然起きるため、家の付近で起きると逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなります。



### こんな前兆現象に要注意!!



斜面にひび割れができる。



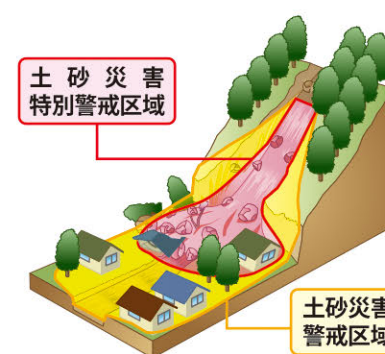
わき水の量が増える。



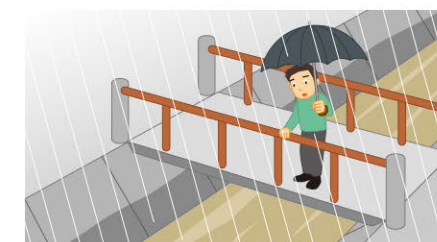
がけに亀裂が入ったり、小石が落ちてくる。

### 土石流

長雨や集中豪雨などによって、山や川の石と砂が水と一体となって一気に下流へ押し流される現象です。



### こんな前兆現象に要注意!!



雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。



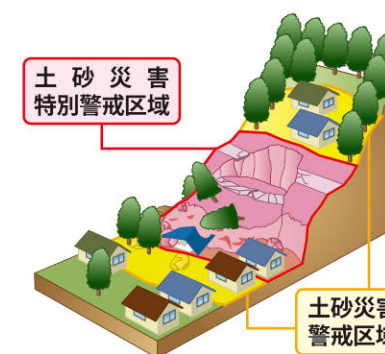
地鳴りの音が聞こえてくる。



川が濁ったり、流木がまざりはじめる。

### 地すべり

大雨や長雨等により雨水が地面にしみこみ、水の力によって持ち上げられた地面が広い範囲にわたりゆっくりと動きだすものをいいます。



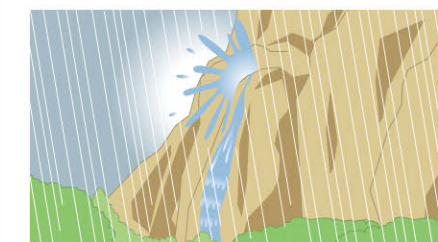
### こんな前兆現象に要注意!!



がけから出る水がにごる。



地面にひび割れができる。



斜面から水が噴き出る。

..... 上記のような現象が前兆現象のすべてではありません。また、前兆現象がない場合でも土砂災害が発生することもあります。.....



### ●土砂災害警戒情報とは

土砂災害警戒情報とは、大雨警報の発表中に、土砂災害発生の危険度が高まったとき、奈良県と奈良地方気象台が共同で発表する情報です。土砂災害警戒情報が発表されたら、土砂災害を厳重に警戒し、町からの情報を入手して避難してください。また、土砂災害警戒情報が発表されていなくても、地形や地質の条件により土砂災害が発生するおそれがあるため、十分注意しながら、早めの避難行動をとってください。